

令和 6 年度 事業報告

1. 公益目的事業の推進

本財団の事業は、広島の実爆被爆者の記憶を原点として、世界平和都市広島としての責任と義務を果たすべく、国際平和の実現とより密接な国際交流を図り、平和の啓発活動を推進するため、下記の事業を実施した。

(1) 第36回 谷本清平和賞

この賞は、本財団の発起人であり日本キリスト教団広島流川教会の牧師であった谷本清氏が、被爆後世界平和のために活躍された功績を継承し、さらに世界が平和であることを願って、毎年平和のために貢献した人(含む団体)を表彰する。

第 36 回目の「谷本清平和賞」は、被爆死した米兵捕虜について長年にわたり調査する活動が続いている歴史研究家で被爆者の森重昭氏に授与した。森氏は、会社勤めの傍ら粘り強く独力で調査を進め、原爆投下時、米兵捕虜 12 人が原爆の犠牲になっていたことを突き止められ、そして、その遺族を探す活動を長年にわたり続けてこられた。2008 年には調査・研究の成果を「原爆で死んだ米兵秘史」として出版された。2016 年 5 月に米国の現職大統領として初めて広島を訪れたオバマ氏に、感謝とねぎらいの意を込めた優しい抱擁を受けられる姿が世界へ伝えられた。その後も、長期の調査活動を通じて、米兵遺族との交流や長崎原爆で死亡した連合軍捕虜 8 人の名前と遺影を登録する活動も続けている。

(2) 第33回 世界平和弁論大会

世界平和に対する関心を高め、平和の意識を高揚し啓発することを目的として、外国人留学生による日本語の「世界平和弁論大会」を開催した。8 カ国から 12 名が発表した。

(3) その他の事業

該当なし